



感 覚 遮 断 と
認 識 阻 害 で

完 全 敗 北

基本
差分
9510
枚枚

舌み込んで
おいてなにも
せぬとは...

ローマ
とリンドウ
ビヤッ

...

...

...

...

...

...

ほいほい♪



今日も楽勝じゃな♪

たまには手応えの
ある淫魔と手合わせ
願いたいのう



このままでは
腕が鈍ってしまうわい



おっと

また変な声が
漏れてしまった



ううむ

瞑想が足らんのか

身体の調子は
悪くないはずじゃが…



最近のところ
どうも違和感が…

ま、淫魔討伐も
絶好調じゃし



そこまで気にする
必要もないじゃろ

咲月が異変を初めて
感じたのはこの10日前で
ある。

その日も淫魔の討伐を
遂行しており対象は
大量の触手であった。

難なく殲滅に成功したが
彼女は一匹の小さな
触手を見逃していた。

そして、それが自らに
寄生していることにも…。

その夜、触手は
咲月の脳を
ほんの少しだけ
弄った。

自分の存在に
気付けないように。

ちっぽけな存在である
触手の小さな抵抗で
ある。



そして10日間で
咲月の身体を弄ぶほど
には成長をとげていた。

本格的に身体へ
触手を這わせたのは
この日が2日目である。

本人は僅かな違和感を
感じてはいるものの
その存在には気付けない。

触手の活動は次第に
エスカレートしていく。

その日の夜には
彼女の膣内は
触手で満たされ
ごりごりと子宮が
押し潰されて
いたのであった。





なんじゃ？

なにがどうなつて
おる...？

んんん

んんん

んんん

んんん



討伐に
支障はない、が
疲労が、凄まじい

霊力の消費も
激しいし
なにが、起こつておる？



身体に異変はない

攻撃だって
受けていないはず
……なんじやが





寄生15日目
討伐開始後
身体の絶頂回数
6回を観測
この絶頂の快樂は
術(感覺遮断、
認識遮断)の
解除後一気に
開放される。

だ、だめじゃ
身体がまともな
動かん！！！！

ゼッ、

ゼッ、
ゼッ、

ゼッ、

ゼッ、



身体に異変は
ないはずじゃが
疲労？なのか
身体の自由が
効かなくなってる



ゼッ

ズッ

ズッ
ズッ



ズッ

おそろくなにかしら
淫魔の攻撃を受けて
おる、としかいっ
淫魔の巢窟の
奥深くまできたが
撤退も仕方あるまい



ゼン

ズン
ズン
ズン

ゼン
ゼン

ゼン

絶頂
+1

絶頂
+1

絶頂
+1

絶頂
+1

セク

セクセク

ズンズン

セク



感覚遮断解除

蓄積絶頂の解放



ゼッ

セッ
セッ

ズッ

ゼッ

発動

ゼッ

ゼッ
ゼッ

ゼッ
ゼッ

ゼッ





おび

びび

びび

びび

びび

びび

びび



お

は

せ

く

なんじゃ、この...
感覚、はっ!?

せ

く



急に、イカされ、たっ!?

な、なんでっ!?

ゼク

ヒク

ピ

ヒク

ヒク



何回も蓄積されたような
快楽が一気に……っ!?

セクッ

うっ……っ……っ

セクッ

ピー

セクッ

セクッ

セクッ



淫魔に囲まれた
この状況、でっ!
好き勝手にさせる
わけに、はっ

ぺ

ん

んんん

ん

ん

せく

んん

態勢を、靈力を
整えなければっ

じゃ、じゃが……っ
ま、また快樂が
流れ込んでくるっ！





ギョッ

ギョッ

ギョッ

ギョッ!!

ギョッ

くそっ
いつたいなんなんじゃ
これは……

次から次へと
快感が流れこんで……

ふいふい

んんん

んんん

んんん



まるで蓄積されてた
ものが溢れ出てくる
ような……っ

ぜ、絶対淫魔の
せいじゃ

ふいっ

んんん

んんん

んんん



いつたいいつの間だ
攻撃された……？

い、いや、それは
今考えることでは
ない……っ

ふんっ

んんん

んんん

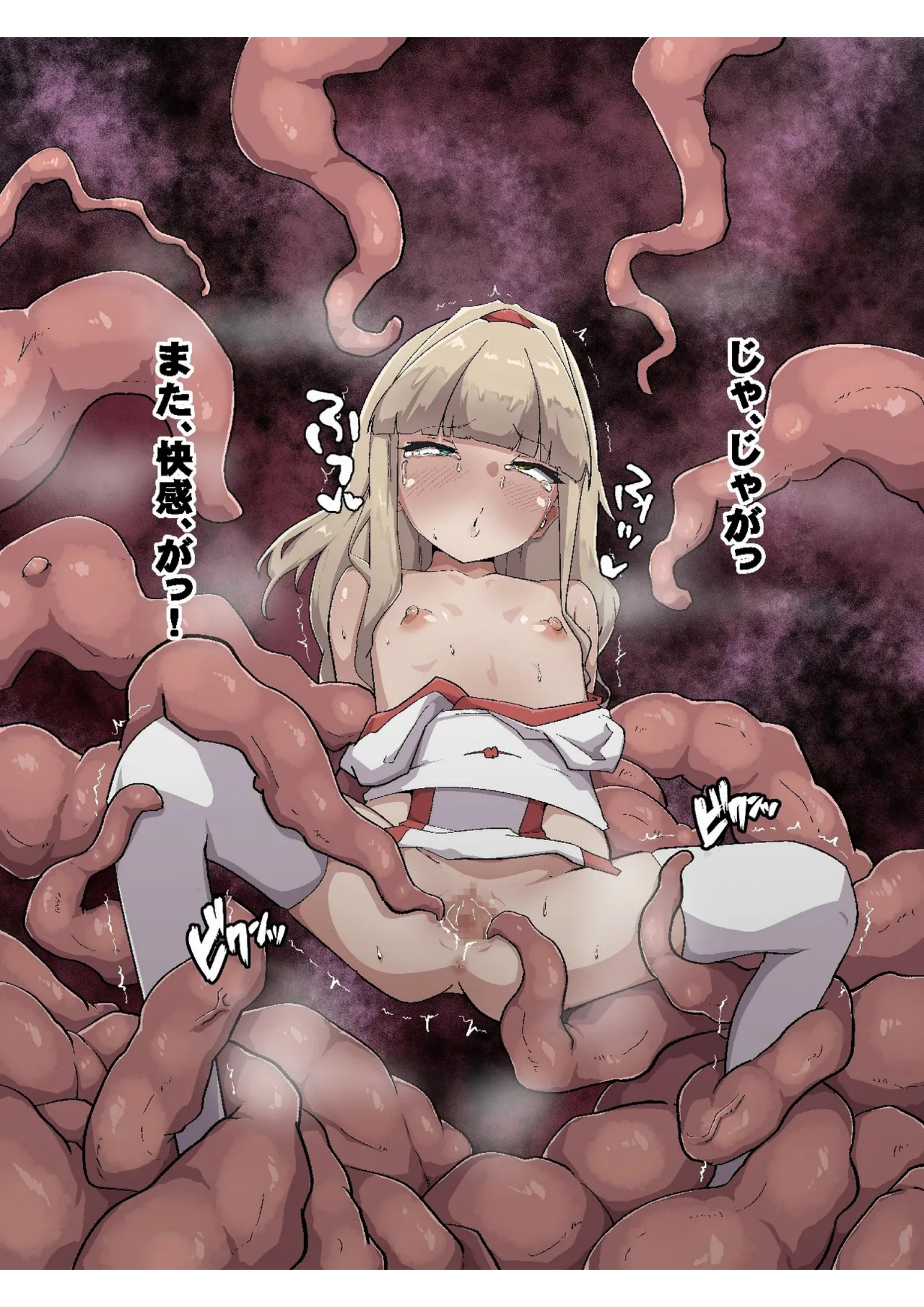
んんん



どうにか
抜け出さなければっ

このままでは
好き勝手に弄ばれて
しまっつ!





また、快感、がつ！

ふいふい

ニムニム

びや、びやがっ

びん

びん



ギク

グワッ!!

グワッ!!



く、う

どんどん快感が
強くなってるっ

ん、ん、ん

ん、ん、ん

だ、めじゃっ
身体の自由が
効かん……っ

ゼッ、

びゅ



触手なんか、にっ

ん

ふい

くそっ!

呑み込まれ、るっ!

セク

びん

くそっ
結局呑み込まれて
しまったか

じゃが触手の動きは
止まったようじゃ



今のうちに
身体を回復させ
なければ……

霊力さえ回復すれば
この程度の拘束
なんとでもなる



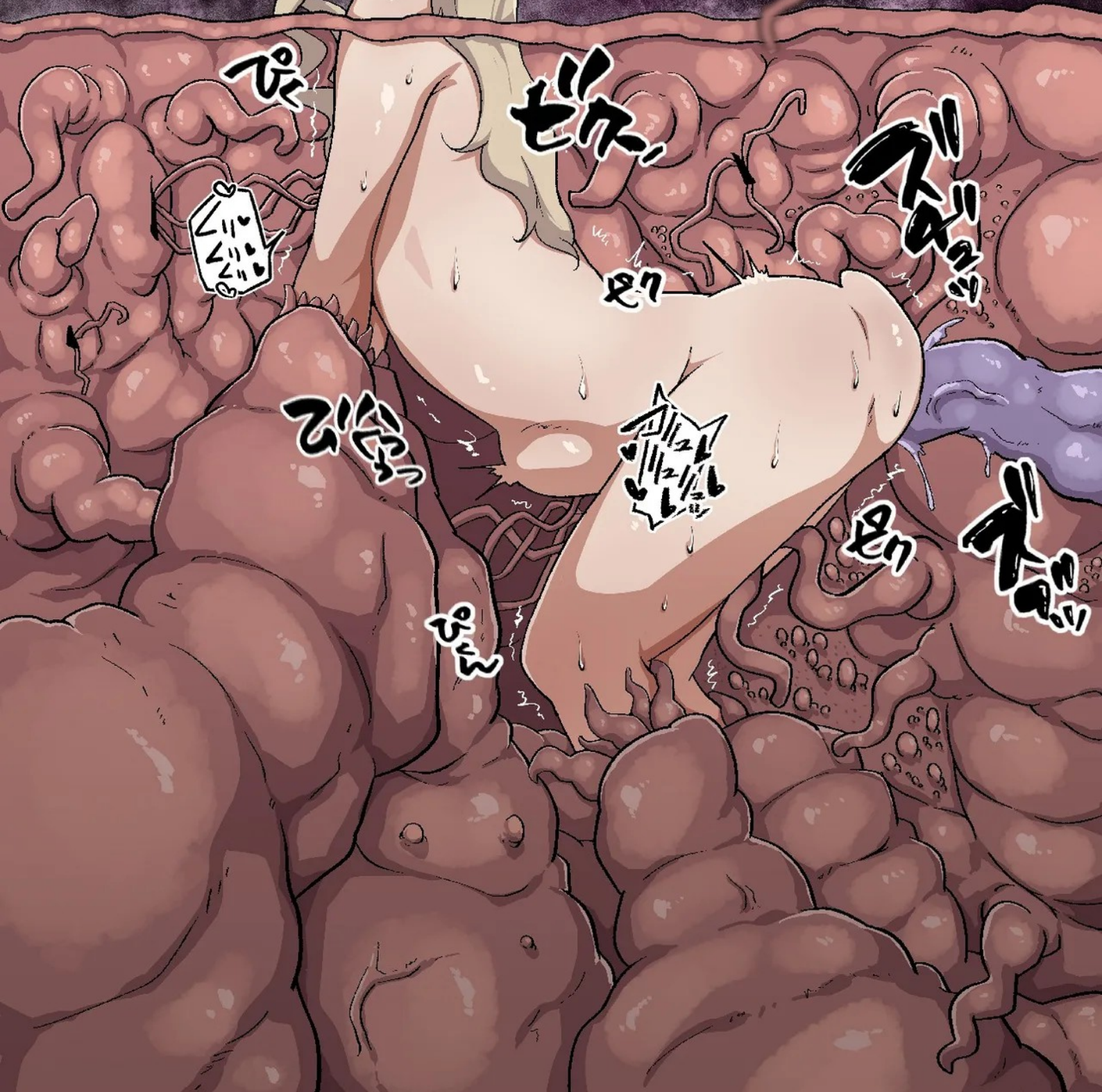
感覺遮斷
認識阻害

再發動



うーむ
どうやら
フムフム
ピヤッ?

呑み込んで
おいてなにも
せぬとは…



ピ

ピク

グ

ん

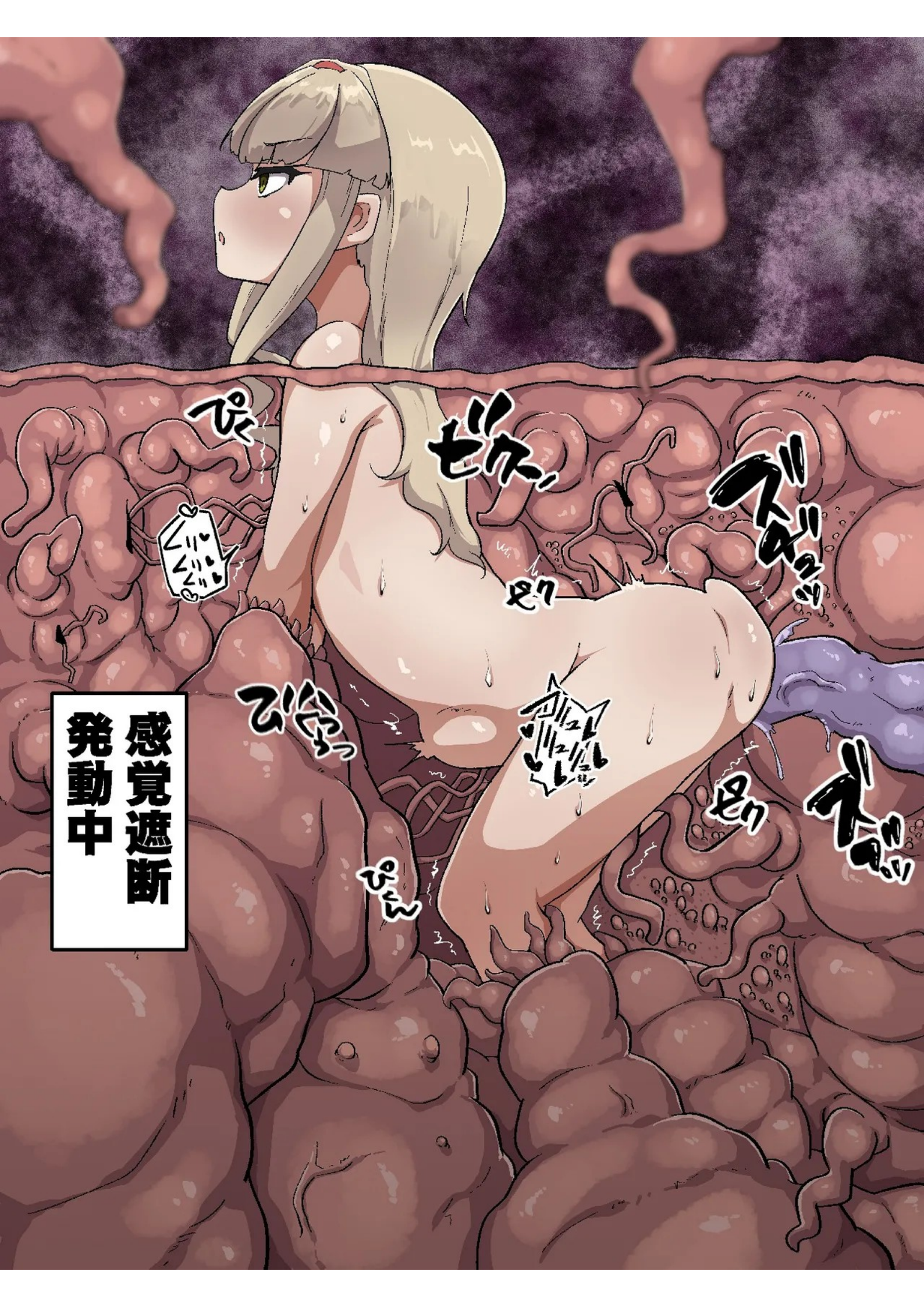
ひん

ん

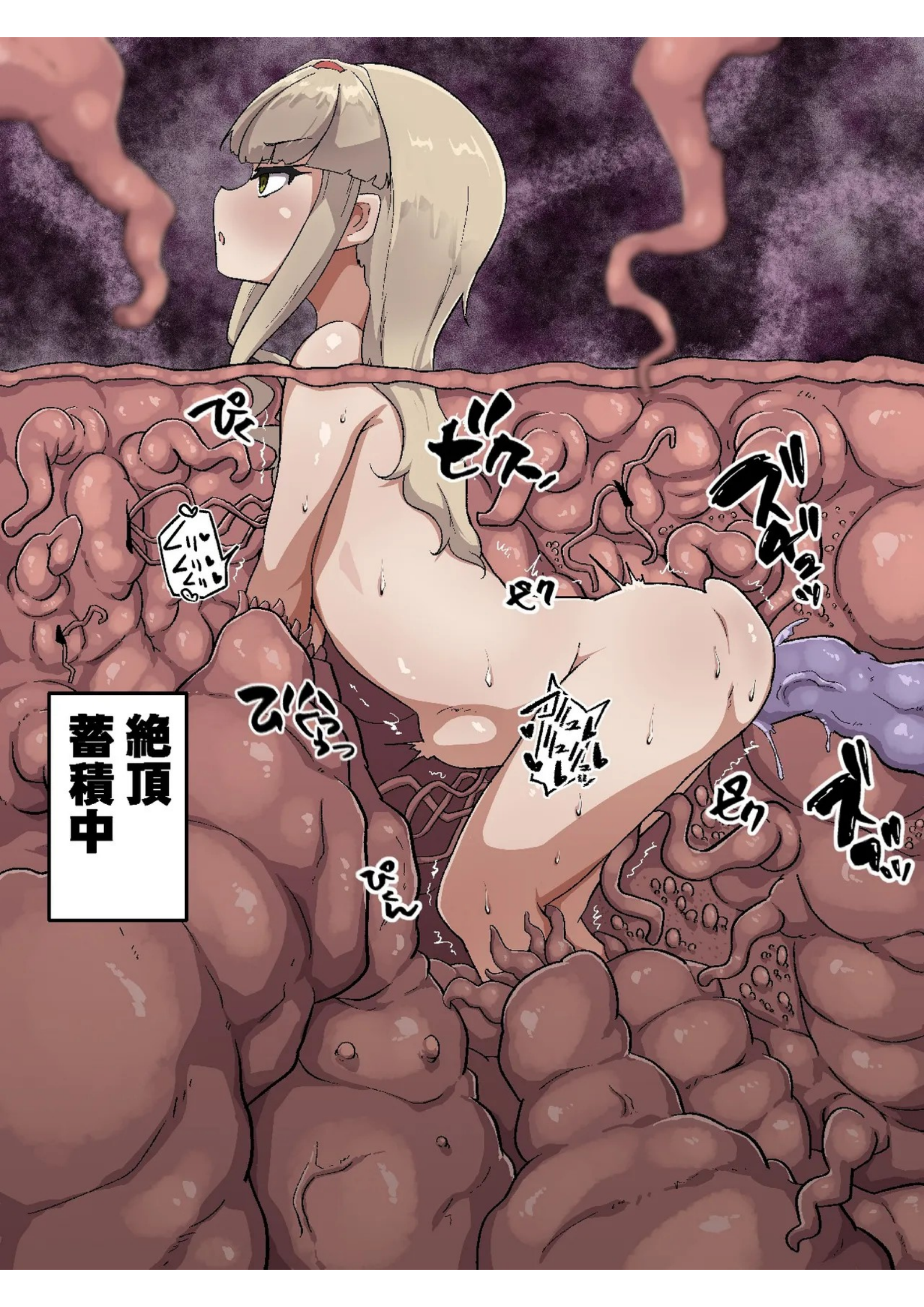
ん

ん

ん



感覚遮断
発動中



で

ビク,

グ
グ
グ

ん

びく

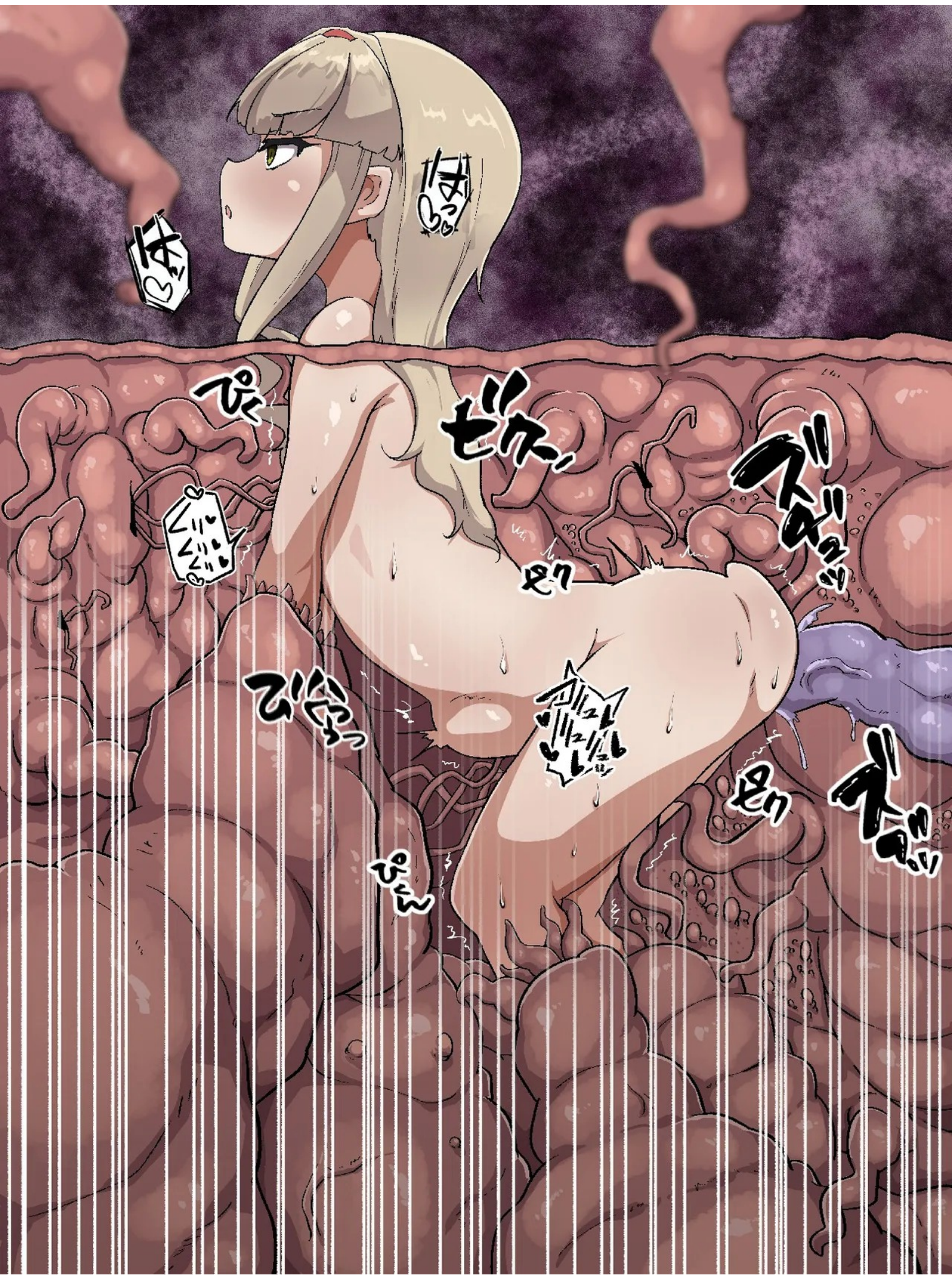
グ
グ
グ

ん

グ
グ
グ

ん

絶頂中
蓄積中



BA

BA

び

びん

びん

びん

びん

びん

びん

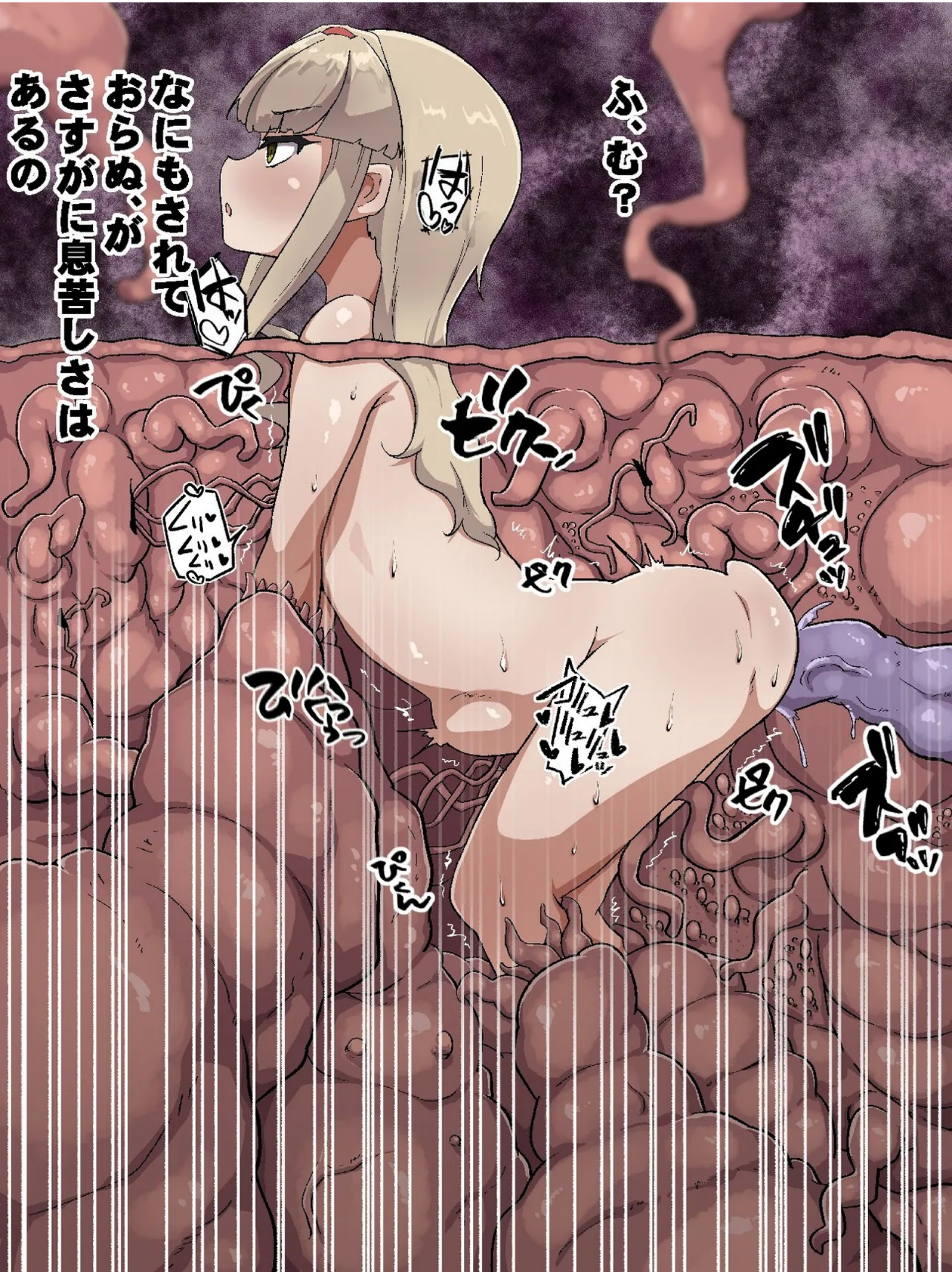
びん

びん

びん

ふ、む？

なににもされて
おらぬ、が
さすがに息苦しさは
あるの



び

びく

びく

び

びく

びく

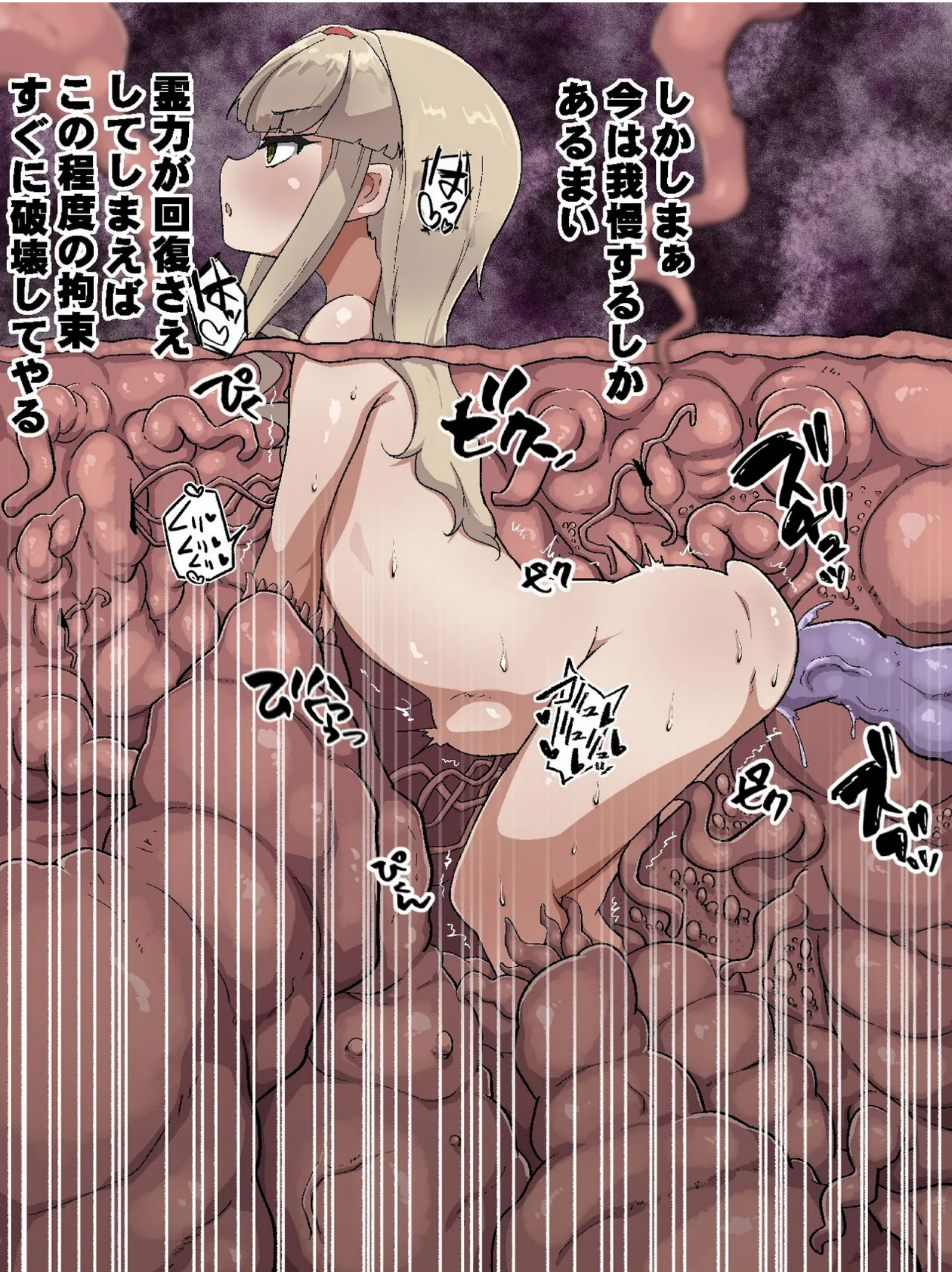
び

びく

びく

しかしまあ
今は我慢するしか
あるまい

霊力が回復さえ
してしまえば
この程度の拘束
すぐに破壊してやる



しかし思い返すと
恐ろしい能力じゃのう
この淫魔は

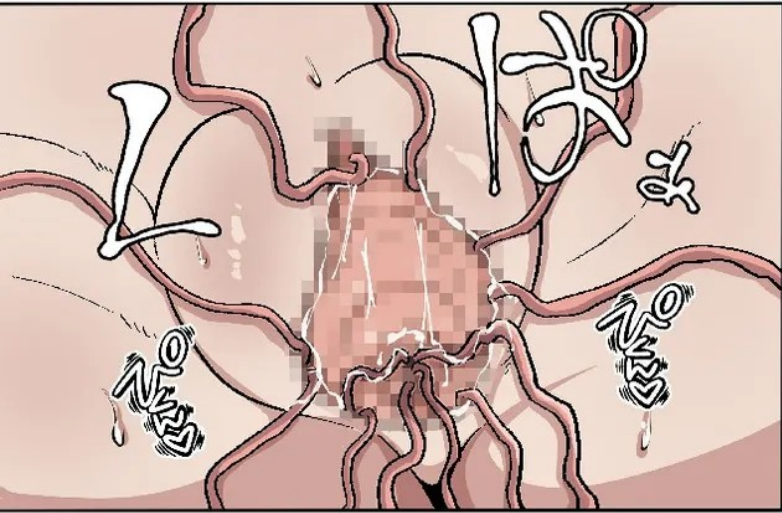


突然あれだけの
快楽を生み出すなぞ
まともに抵抗できぬ

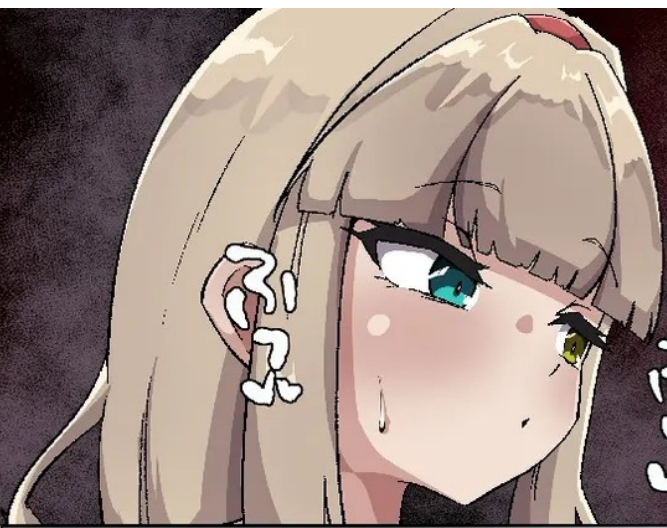
帰ったら
報告が必要
じゃな



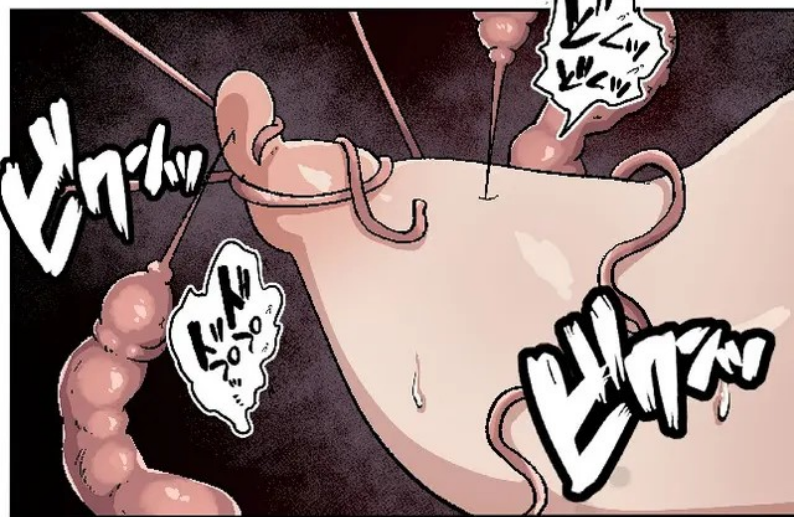
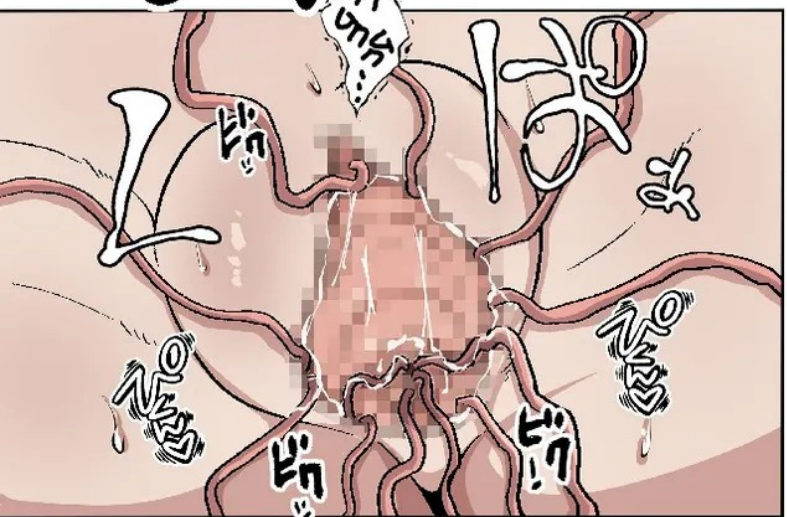
雑魚とはいえ
淫魔じゃ
能力次第で
凶悪にもなる



ま、もしほどの
実力になれば
問題ないがな

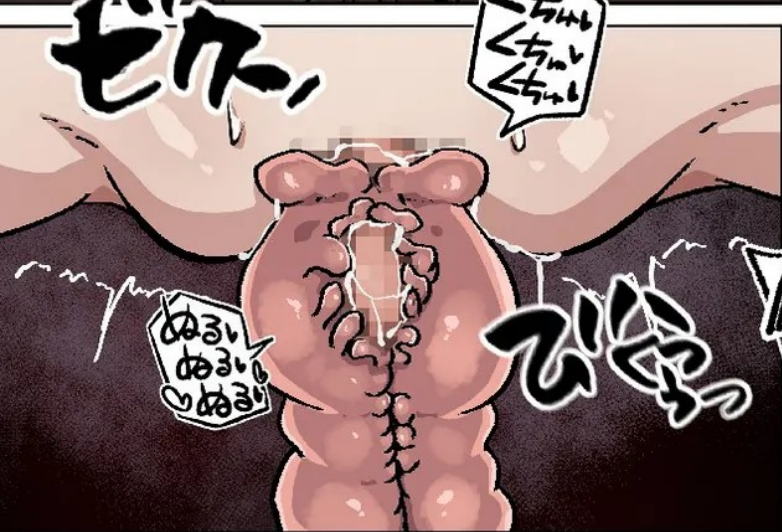
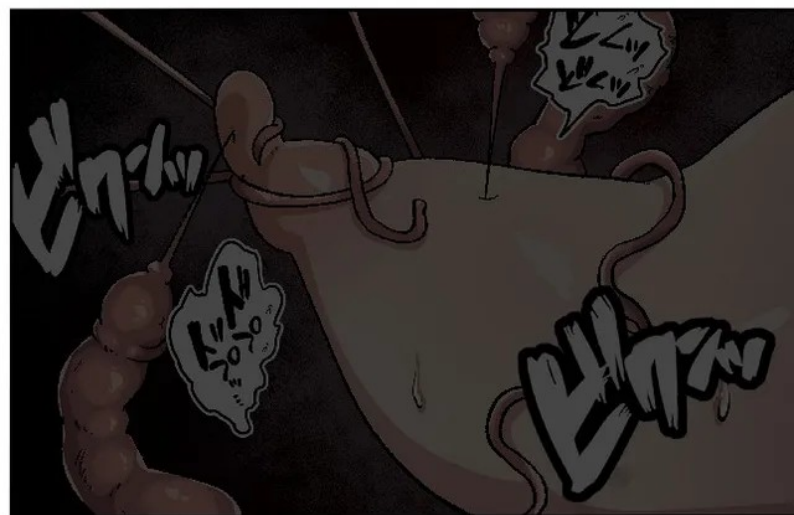
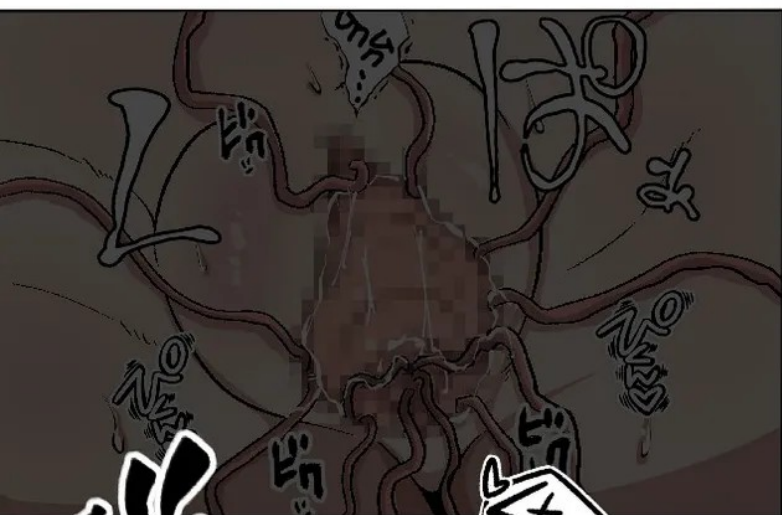
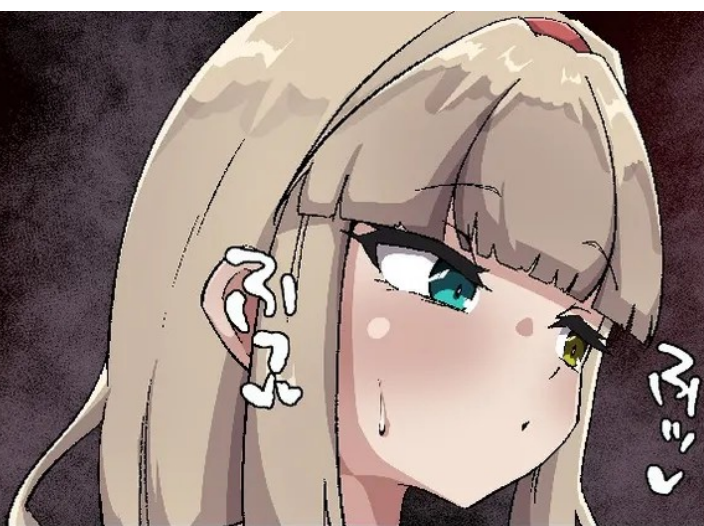


もう油断もない
負けの目は
なくなっておる



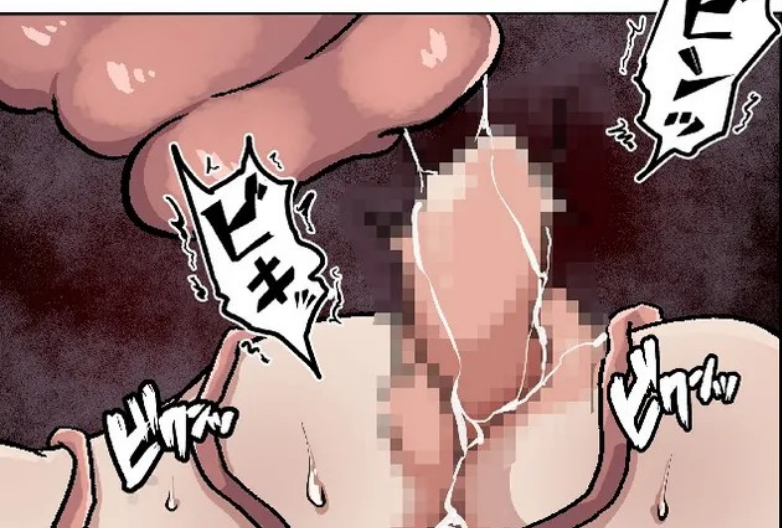
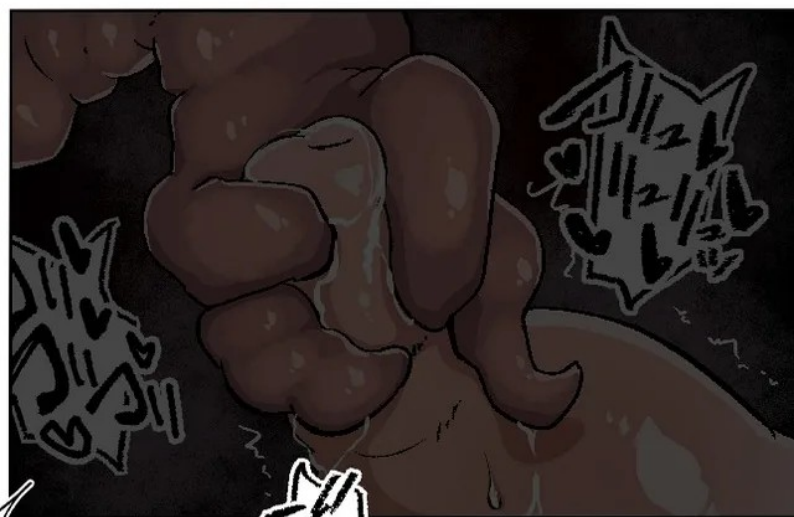
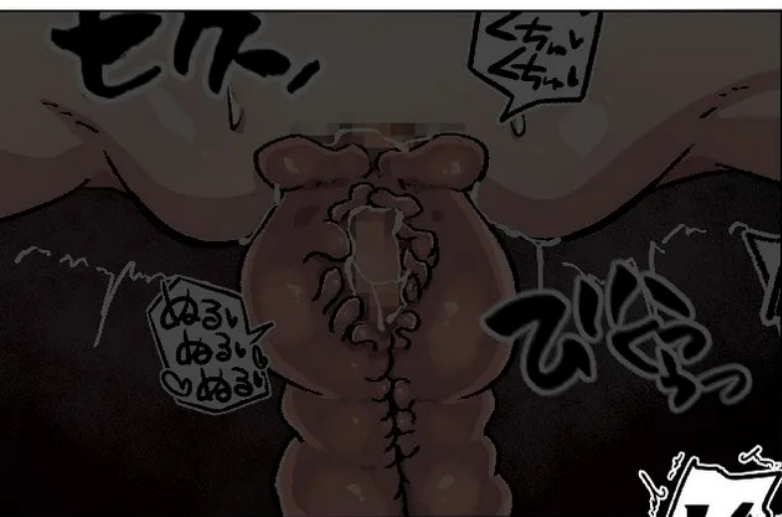
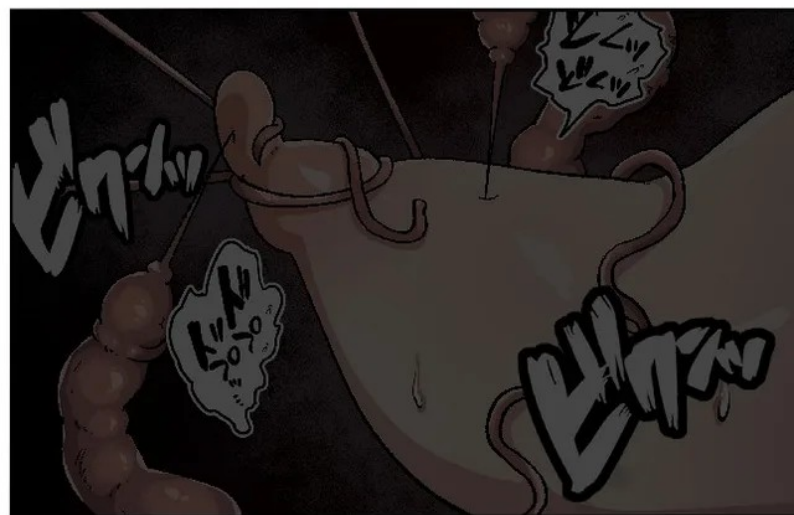
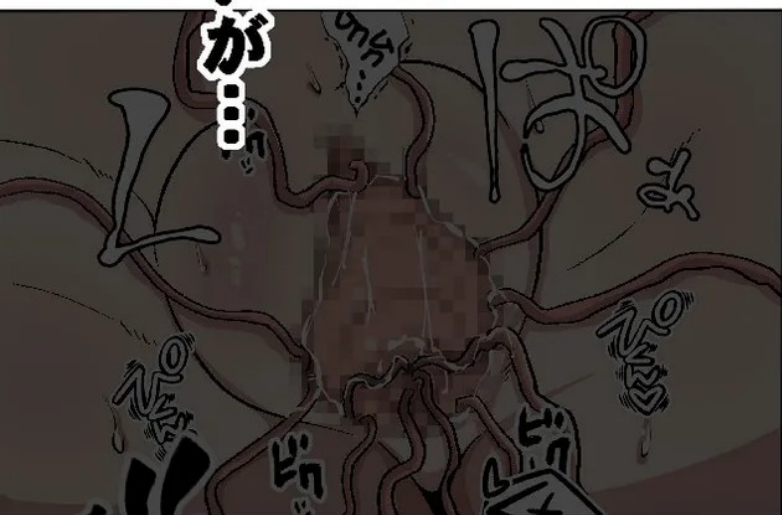
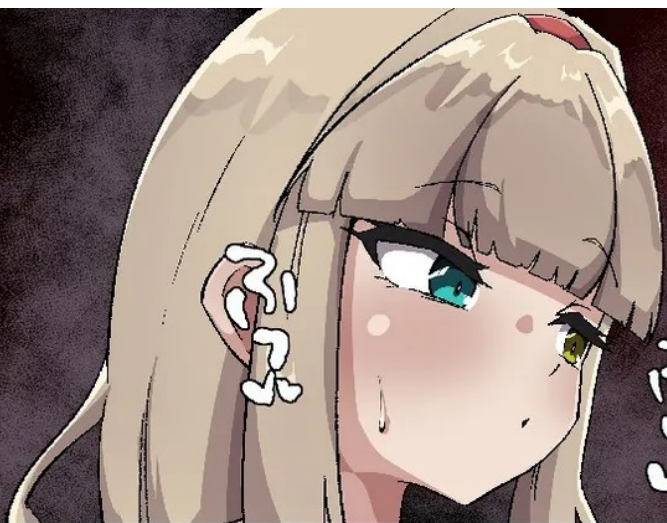
しかし…
妙に蒸すな

汗が止まらぬ



待つのは
性に合わん

早く霊力が
回復すれば良いが...



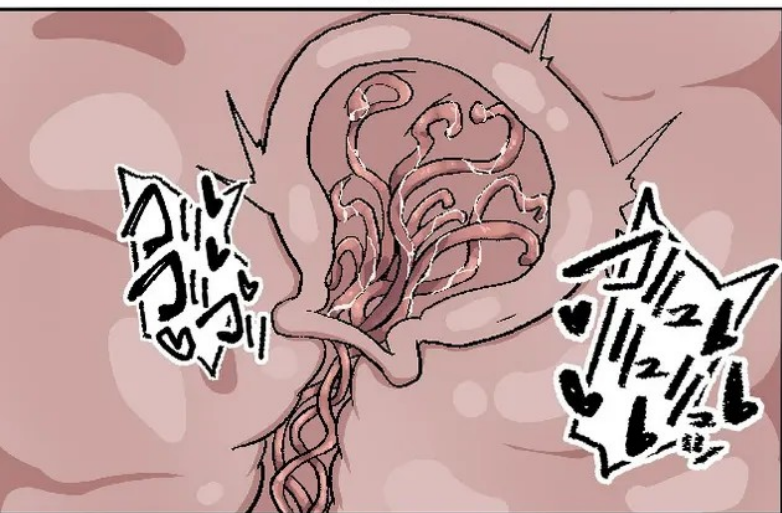
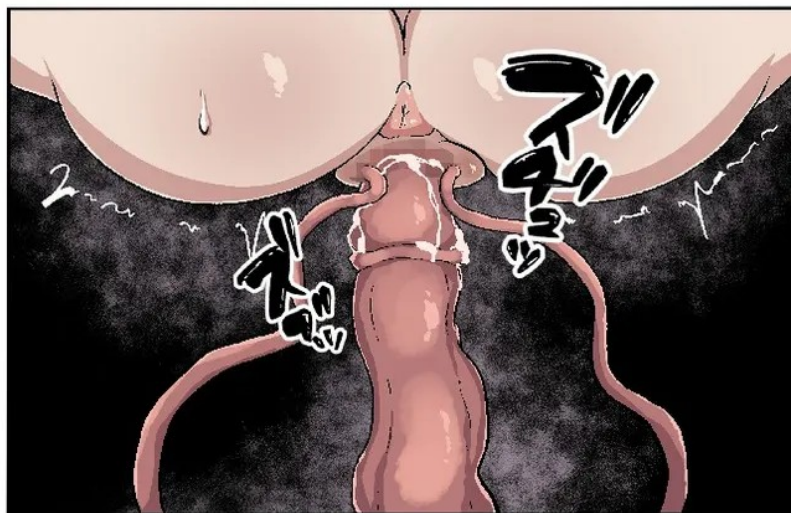
さて
そろそろ
靈力も回復
したじやる



一気に反撃
させてもらおうと
するかのう

あ、あれ？
思ったより
回復して
おらんな

まだもう少し
かかる、か？



おかしいのう

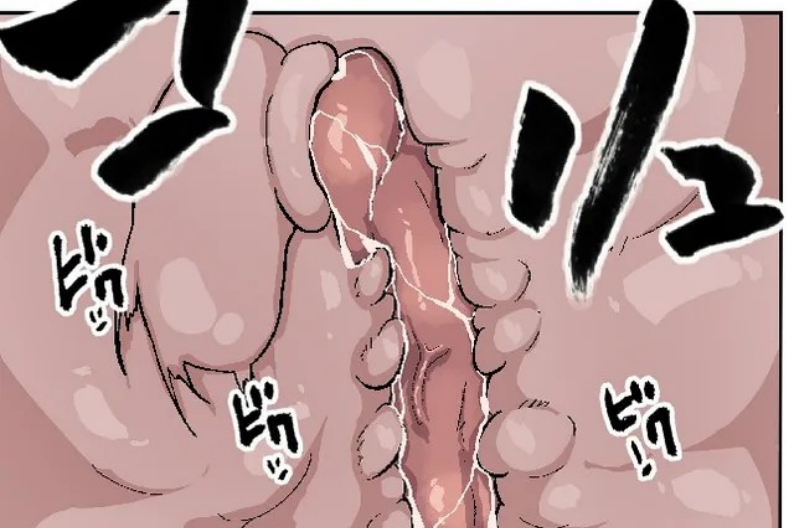
いつもなら
全快しておる
時間じやが…





じやろっとなあ

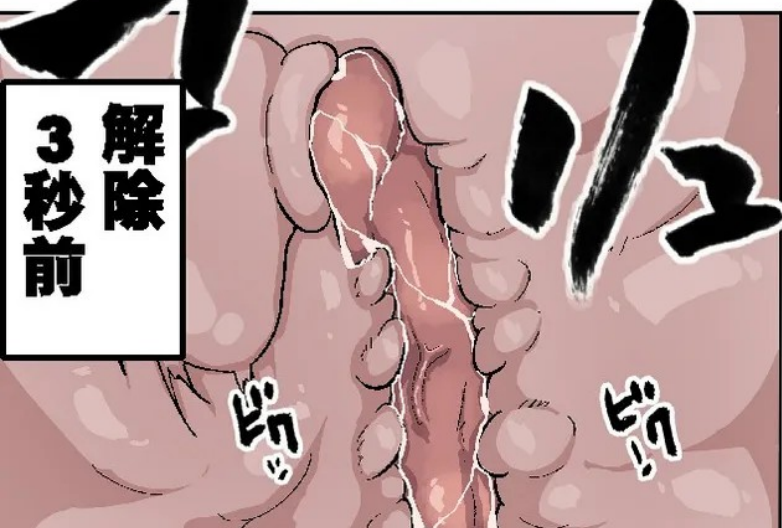
待つしかない...





仕方ない

はあ...



解除
3秒前

感覚遮断
認識阻害





なんなんじやっ!?

ど

ど

ど

ど

ど

いきなりっ
深いキとせら、れ、てっ!





イカされるっ♡

いっしょ

いっしょ

む、無理やりっ！

いっしょ

いっしょ

いっしょ



びしょ濡れ

びしょ濡れ

身体がっ♡
屈服しておるっ♡

我慢できないうっ♡

びしょ濡れ

びしょ濡れ

びしょ濡れ



ぐんぐん

ぐんぐん

ゼク!

墮とされるっ♡

わけのわからぬ
ままつ♡

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん



アッアッアッ

アッアッアッ

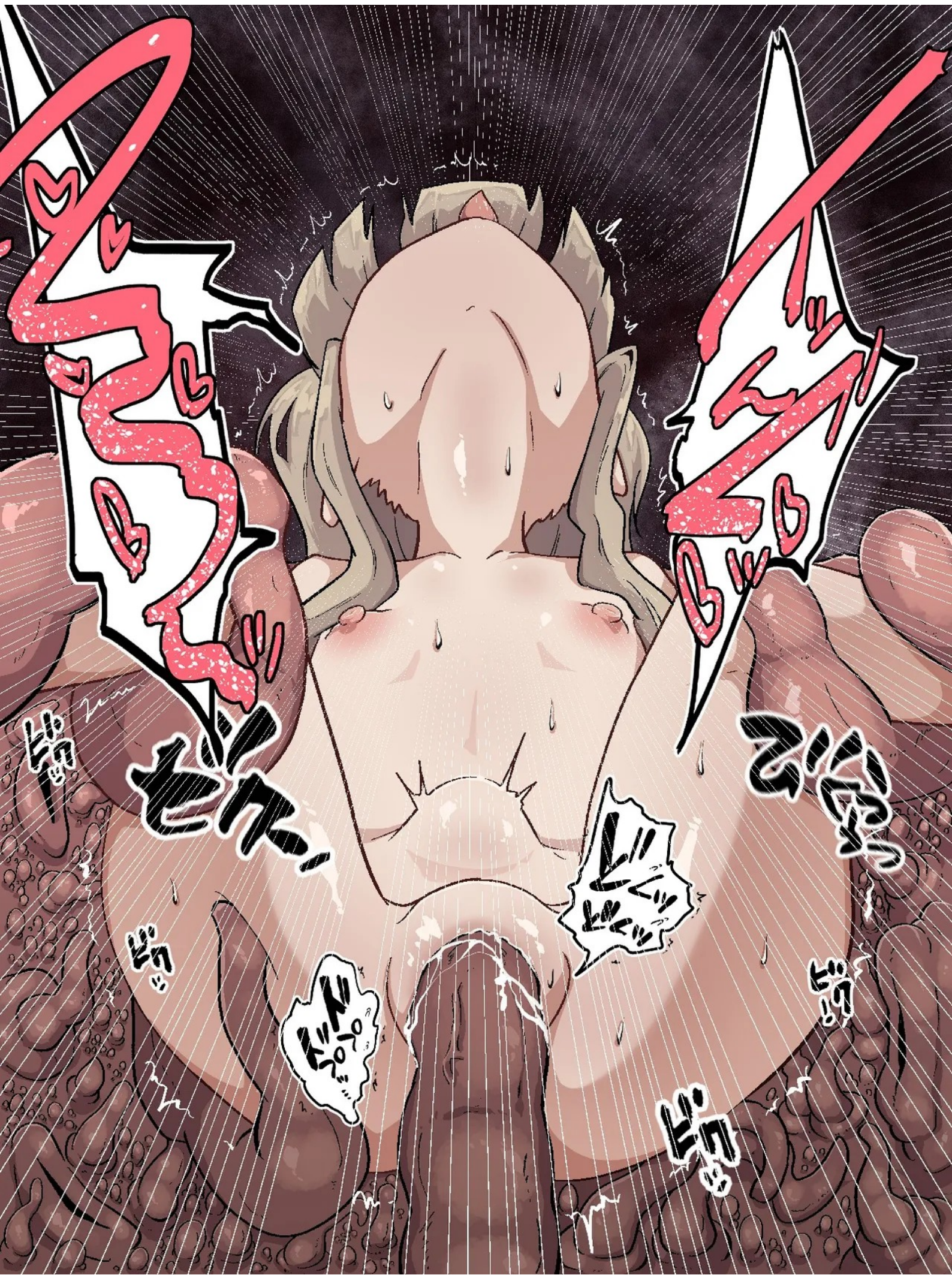
だ、めじやっ
まともにも考え
られないっ♡

いったい
なにがおきでっ!?

アッ

アッ

アッ



ここからさらに
百回以上の絶頂を
強要された後
解放される

しかし、それは
終わりではなく
はじまりでしか
なかった



寄生触手は延々と
認識阻害、感覚遮断
を繰り返し咲月を
苦境に陥れる

それは日常生活は
もちろん淫魔を
討伐するタイミング
も関係なしであった



討伐時の解除は
致命的で咲月は淫魔に
対して屈辱の20連敗
を喫することとなる

その度に限界まで
快樂責めをされ
何千回と絶頂を強要
されてしまうのであった



